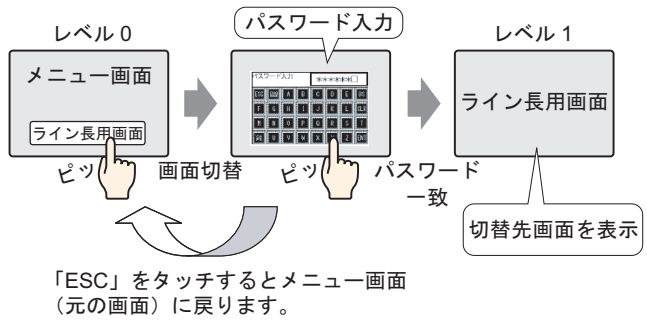
21 セキュリティを強化したい

この章では、GP-Pro EX の「セキュリティを強化したい」についての基本的な説明と、設定変更のための基本操作について説明します。
まず「21.1 設定メニュー」（21-2 ページ）をお読みいただき、目的に合った説明ページへ読み進んでください。

21.1 **設定メニュー** 21-2
21.2 **特定の人だけ使える画面を作りたい** 21-4
21.3 **さらに、権限により使える画面を制限したい** 21-7
21.4 **任意のタイミングですべてのタッチ操作を無効にしたい** 21-10
21.5 **操作履歴を残したい** 21-12
21.6 **パスワード / ユーザ ID 入力ウィンドウについて** 21-16
21.7 **設定ガイド** 21-19
21.8 **制限事項** 21-48

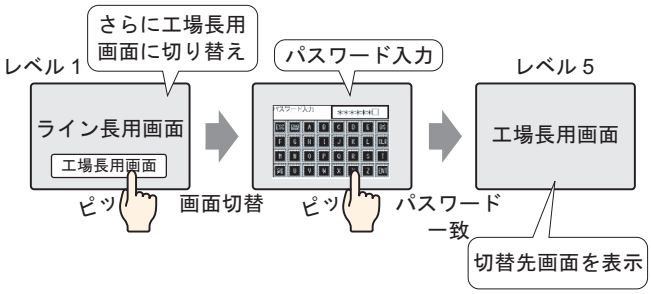
21.1 設定メニュー

特定の人だけ使える画面を作りたい



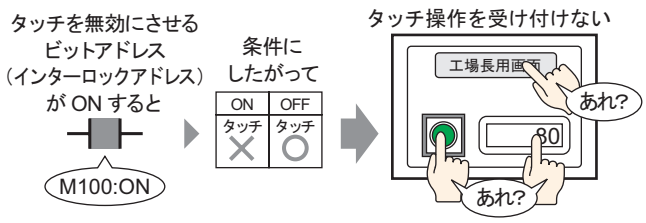
☞ **設定手順**（21-4 **ページ**）

さらに、権限により使える画面を制限したい



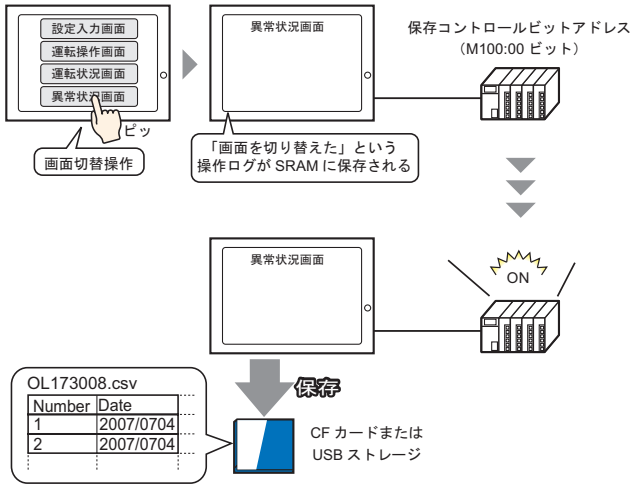
☞ **設定手順**（21-7 **ページ**）

任意のタイミングですべてのタッチ操作を無効にしたい



☞ **設定手順**（21-11 **ページ**）

操作履歴を残したい



☞ **設定手順**（21-13 **ページ**）

21.2 特定の人だけ使える画面を作りたい

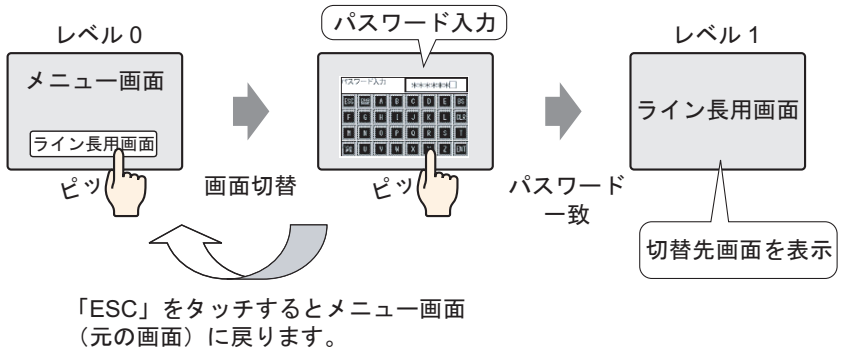
21.2.1 設定手順

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「21.7.1 共通設定（セキュリティ設定）の設定ガイド」（21-19 ページ）

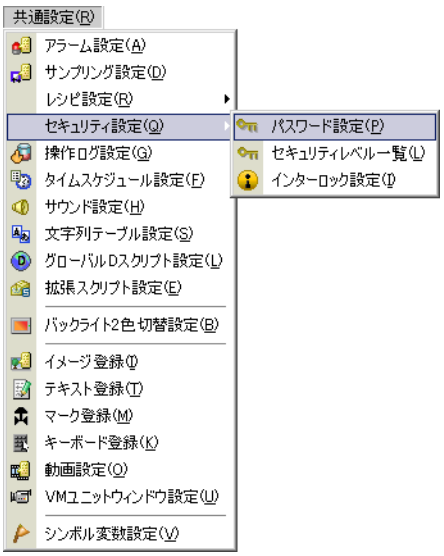
ライン長用画面（画面番号：B2）にセキュリティレベル 1 とパスワード（1111）を設定します。



MEMO

- セキュリティレベル 0 は、セキュリティがかかっていない状態です。

1 [共通設定 (R)] メニューの [セキュリティ設定 (Q)] から [パスワード設定 (P)] を選択するか、ツールバーの をクリックします。

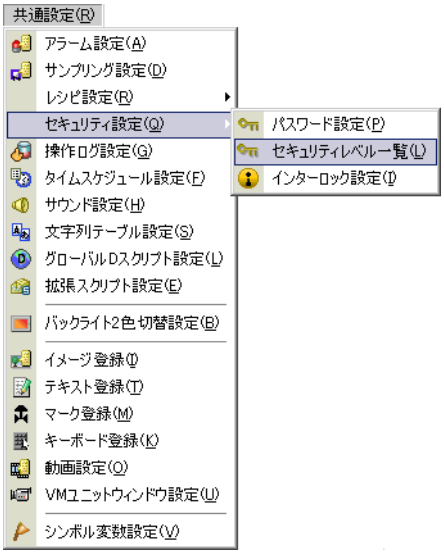


2 パスワード設定画面が開きます。[セキュリティ機能を使用する] にチェックを入れ、[レベル 01] にパスワード「1111」を入力します。

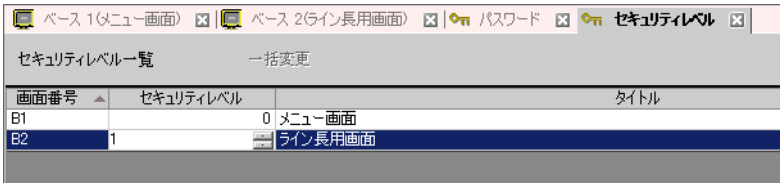
MEMO

- パスワードは半角英数字 8 文字以内で設定してください。
- [ユーザ ID を追加する] にチェックを入れると、パスワードにユーザ ID を追加して設定することができます。ユーザ ID はパスワードと同様、半角英数字 8 文字以内で設定してください。

3 [共通設定 (R)] メニューの [セキュリティ設定 (Q)] から [セキュリティレベル一覧 (L)] を選択します。



4 ライン長用画面（画面番号：B2）の [セキュリティレベル] を「1」に設定して完了です。



MEMO

- 一度ログインすると、電源を切るまでそのセキュリティレベルでのログインが有効になります。
  高いセキュリティレベルでログインした場合や離籍時は、セキュリティ強化のためにセキュリティレベルをクリアすることをおすすめします。

☞「21.7.1 **共通設定（セキュリティ設定）の設定ガイド ◆ 拡張設定**」(21-21 **ページ**)

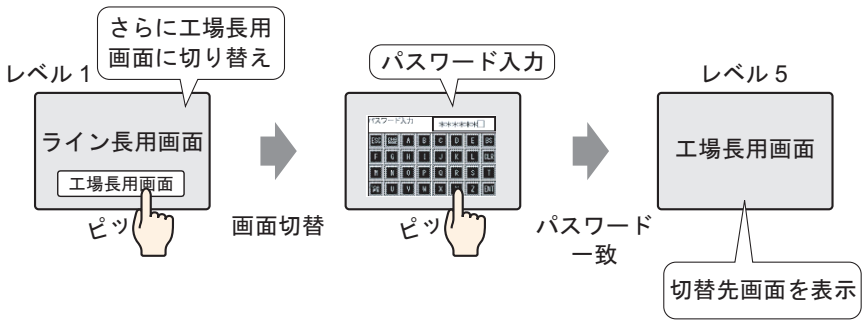
21.3 さらに、権限により使える画面を制限したい

21.3.1 設定手順

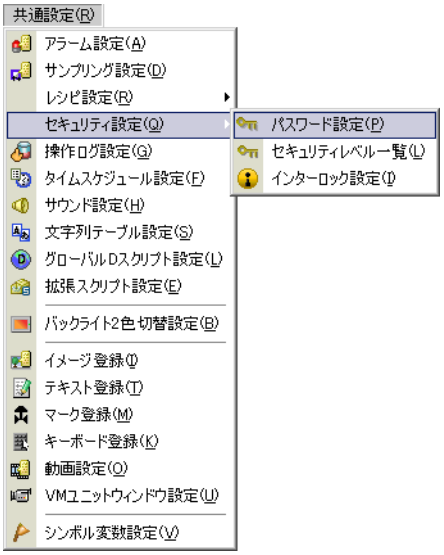
MEMO
- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「21.7.1 共通設定（セキュリティ設定）の設定ガイド」（21-19 ページ）

工場長用画面（画面番号：B3）にセキュリティレベル 5 とパスワード（5555）を設定します。



1 [共通設定 (R)] メニューの [セキュリティ設定 (Q)] から [パスワード設定 (P)] を選択するか、ツールバーの をクリックします。

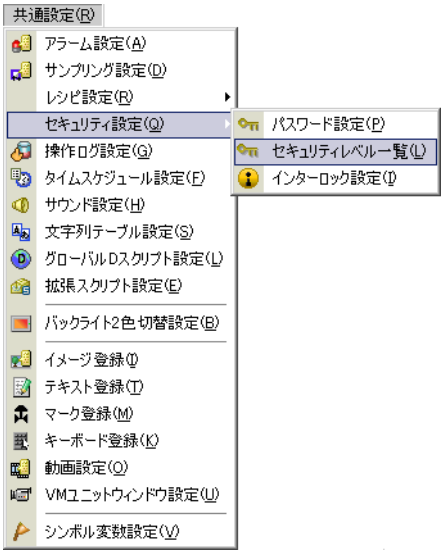


2 パスワード設定画面が開きます。[セキュリティ機能を使用する] にチェックを入れ、[レベル 01] にパスワード「1111」を、[レベル 05] にパスワード「5555」を入力します。

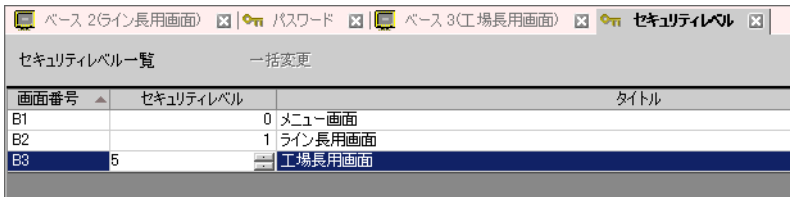
MEMO

- パスワードは半角英数字 8 文字以内で設定してください。
- [ユーザ ID を追加する] にチェックを入れると、パスワードにユーザ ID を追加して設定することができます。ユーザ ID はパスワードと同様、半角英数字 8 文字以内で設定してください。

3 [共通設定 (R)] メニューの [セキュリティ設定 (Q)] から [セキュリティレベル一覧 (L)] を選択します。



4 ライン長用画面（画面番号：B2）の [セキュリティレベル] に「1」を、工場長用画面（画面番号：B3）に「5」を設定して完了です。



MEMO

- 一度ログインすると、電源を切るまでそのセキュリティレベルでのログインが有効になります。
  高いセキュリティレベルでログインした場合や離席時は、セキュリティ強化のためにセキュリティレベルをクリアすることをおすすめします。

☞「21.7.1 共通設定（セキュリティ設定）の設定ガイド ◆ 拡張設定」（21-21 ページ）

21.4 任意のタイミングですべてのタッチ操作を無効にしたい

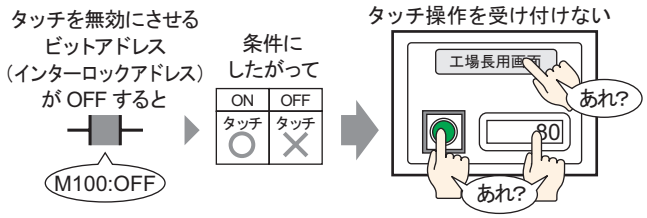
21.4.1 詳細

グローバルインターロックアドレスを使用することで、画面のタッチ操作を制限することができます。

インターロックアドレスに設定したビットアドレスが、タッチ有効条件で成立した場合のみタッチ操作を有効にします。

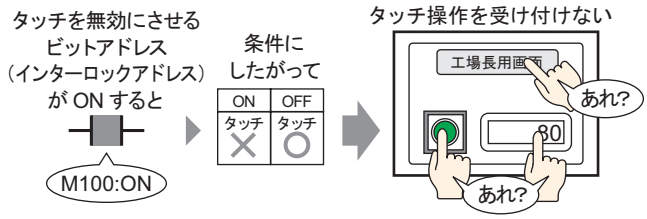
- **タッチ有効条件が「ビット ON」の場合**

  設定したインターロックアドレスが ON のときだけタッチ操作ができます。



- **タッチ有効条件が「ビット OFF」の場合**

  設定したインターロックアドレスが OFF のときだけタッチ操作ができます。



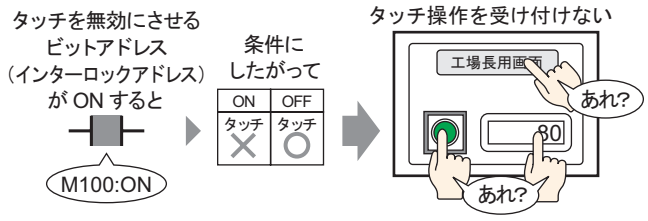
21.4.2 設定手順

MEMO

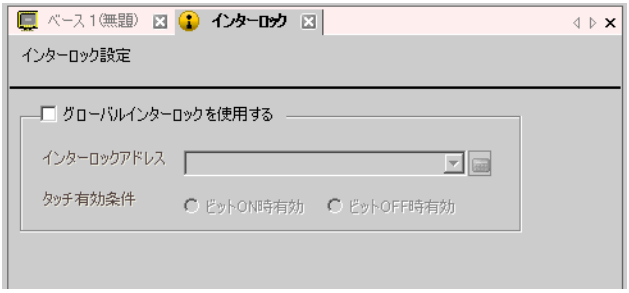
- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「21.7.1 共通設定（セキュリティ設定）の設定ガイド ■ インターロック設定」（21-24 ページ）

タッチ有効条件でビット OFF 時有効を選択し、インターロックアドレスで指定したビット（M100）が ON するとタッチ操作が無効になるよう設定します。



1 [共通設定 (R)] メニューの [セキュリティ設定 (Q)] から [インターロック設定 (I)] を選択するかツールバーの をクリックすると、次の画面が表示されます。

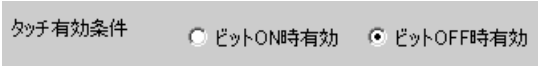


2 [グローバルインターロックを使用する] にチェックを入れ、[インターロックアドレス] にタッチ有効条件となるビットアドレス（例：M100）を設定します。

アイコンをクリックすると、アドレス入力用キーボードが表示されます。

デバイス「M」を選択し、アドレスに「100」を入力して「Ent」キーを押します。

3 [タッチ有効条件] でタッチが有効となる条件を設定します。（例：ビット OFF の時にタッチが有効なので、[ビット OFF 時有効]）

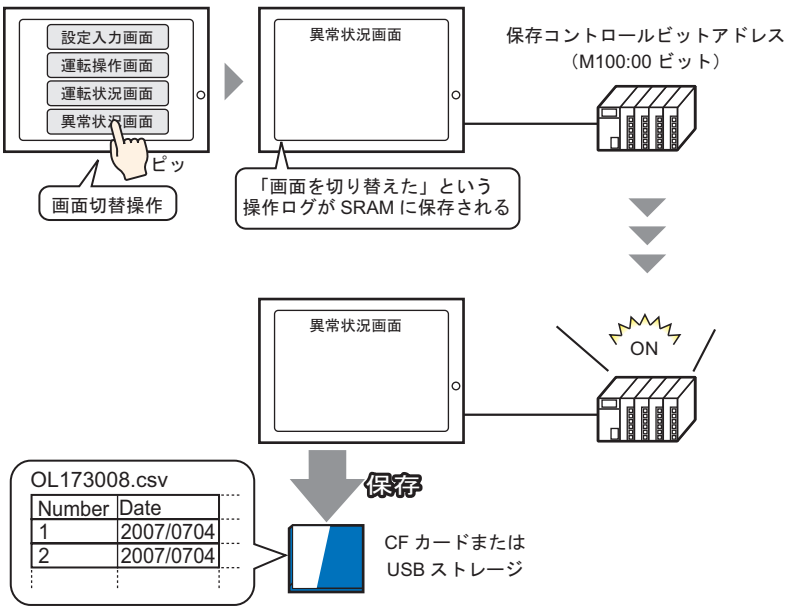


21.5 操作履歴を残したい

21.5.1 詳細

GP 画面を操作した履歴（ログ）を残すことで、異常発生前にどのような操作が行われたのかなどの原因分析に役立ちます。またパスワード設定で [ユーザ ID] を設定しておけば、操作した人の特定ができます。

GP の SRAM に収集される操作ログは通常、指定した回数は自動保存されます。指定したコントロールアドレスの 0 ビット目を ON して CF カードまたは USB ストレージに保存することもできます。保存時に CSV 形式に変換されるので、GP 画面上で [CSV 表示器] を使って確認できるほか、パソコン上で確認することもできます。



MEMO

- ユーザ ID を設定するには、[パスワード設定] で [ユーザ ID を追加する] を有効にするとユーザ ID の登録ができます。

  ☞「21.7.1 **共通設定（セキュリティ設定）の設定ガイド ■ パスワード設定**」（21-19 **ページ**）

- CF カードまたは USB ストレージに保存した操作ログは、特殊データ表示器 [ファイルマネージャ] と [CSV 表示器] を使用して GP 画面上に表示することができます。

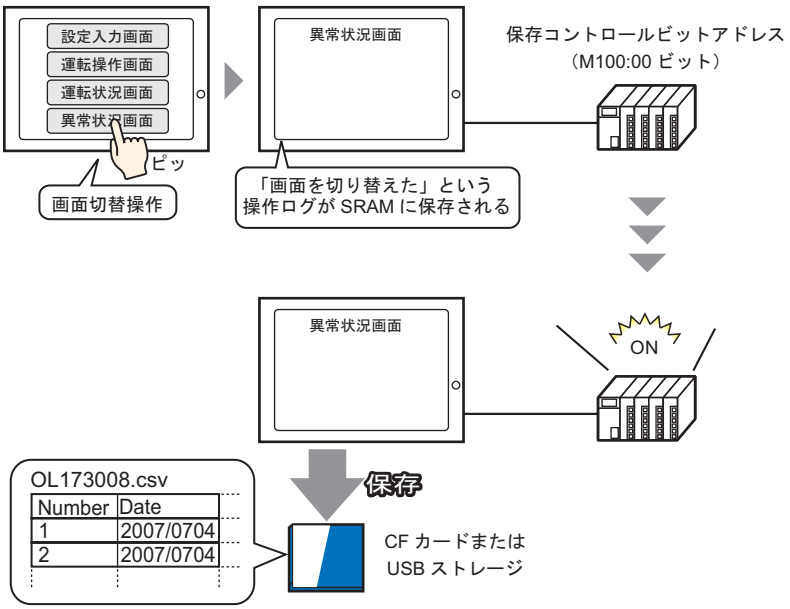
  ☞「24.6 CSV **データを画面上に表示したい / 編集したい**」（24-30 **ページ**）

21.5.2 設定手順

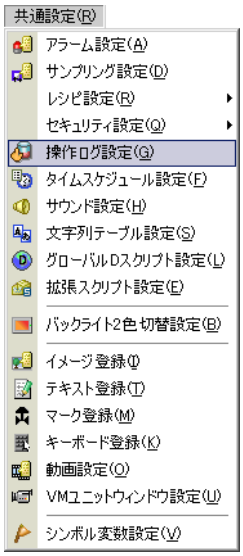
MEMO
- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「21.7.2 共通設定（操作ログ設定）の設定ガイド」（21-28 ページ）

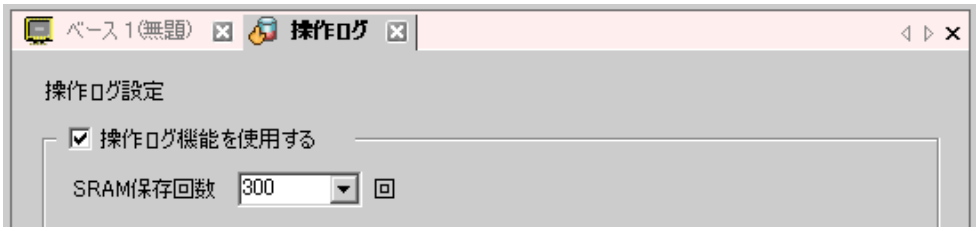
保存コントロールビットアドレスを ON すると、GP の SRAM に収集した操作ログを CSV 形式に変換して、CF カード（または USB ストレージ）に保存します。



1 [共通設定 (R)] メニューの [操作ログ設定 (G)] を選択するか、ツールバーの をクリックします。



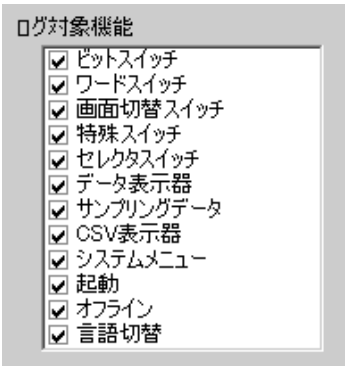
2 操作ログ設定画面が開きます。[操作ログ機能を使用する] にチェックを入れ、[SRAM 保存回数] を選択します。



MEMO

- 設定した保存回数により SRAM のサイズが決まります。
  設定した保存回数を超える場合は、自動的に CF カード（または USB ストレージ）に保存されます。

3 [ログ対象機能] で操作ログを収集したい機能にチェックを入れます。



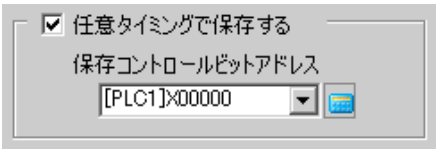
4 [保存先] に [CF カード] を選択します。

5 [保存ステータスアドレス] に CF カードへの書き込みを許可するアドレス（例：D10）を設定します。

アイコンをクリックすると、アドレス入力用キーボードが表示されます。

デバイス「D」を選択し、アドレスに「10」を入力して「Ent」キーを押します。

6 [任意タイミングで保存する] にチェックを入れます。

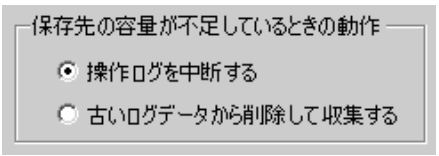


7 [保存コントロールビットアドレス] に保存開始のビットアドレス（例：M100）を設定します。

MEMO

- 指定したステータスアドレスのビット 1（転送完了ビット）が ON していない場合は、保存コントロールアドレスが ON しても操作ログの保存はできません。

8 [保存先の容量が不足しているときの動作] を選択します。



9 [CSV ファイルフォーマット設定] の [日付]、[時間]、[言語設定] で CSV 形式に変換したときの表示スタイルを設定します。

MEMO

- 保存した CSV ファイル内の「項目名」は、[言語設定] で選択した言語に関わらず英語で表示されます。

21.6 パスワード / ユーザ ID 入力ウィンドウについて

21.6.1 「レベルモード」と「ユーザ ID モード」のご紹介

パスワード入力ウィンドウ / ユーザ ID &パスワード入力ウィンドウは、現在表示している画面よりセキュリティレベルの高い画面を表示しようとした時に自動的に表示されます。

「パスワード設定」での指定により、「レベルモード」（パスワードを設定）もしくは「ユーザ ID モード」（ユーザ ID とパスワードを設定）のどちらかが表示されます。

入力したパスワードは * 印で表示されます。

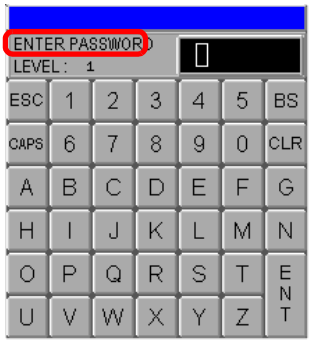
☞「21.7.1 共通設定（セキュリティ設定）の設定ガイド ■ パスワード設定」（21-19 ページ）

■ パスワード入力ウィンドウ / ユーザ ID 入力ウィンドウ

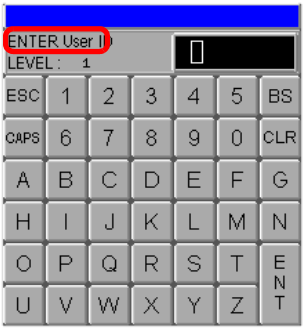
「レベルモード」の場合は、パスワード入力ウィンドウのみ表示されます。

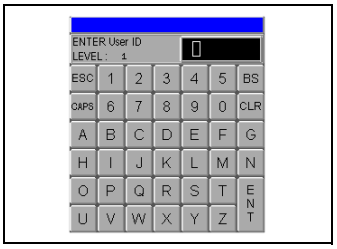
「ユーザ ID モード」の場合は、ユーザ ID &パスワード入力ウィンドウから入力部分をタッチして各ウィンドウを表示します。

< パスワード入力ウィンドウ >

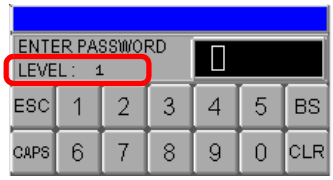


< ユーザ ID 入力ウィンドウ >

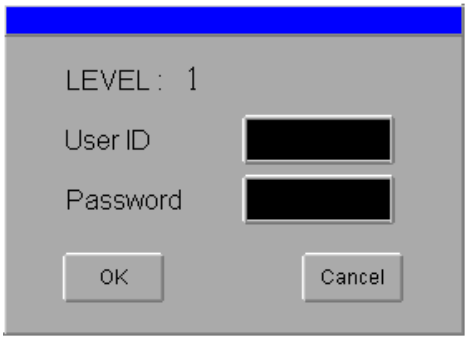


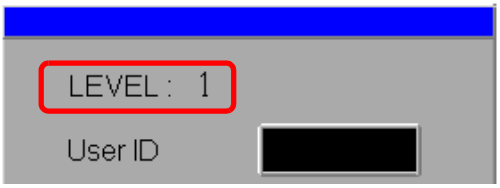
表示	内容
ESC	パスワード / ユーザ ID の入力をキャンセルし、入力ウィンドウを閉じます。  **MEMO** • タッチによる画面切り替えと接続機器からの画面切り替えを併用する場合は、システム設定ウィンドウの [本体設定] ー [表示設定] タブで、[接続機器へ反映] にチェックが入っているか確認してください。チェックが入っていないと、接続機器から画面切り替えを行った場合に、[ESC] キーを押してもキャンセルできません。 ☞「5.15.6 [システム設定ウィンドウ]の設定ガイド ■ [本体設定]の設定ガイド ◆ 表示設定・画面設定」（5-125 ページ）

次のページに続きます。

表示	内容
CAPS	大文字 / 小文字を切り替えます。[CAPS] キーが黒色反転表示されている場合は、小文字入力になります。 **MEMO** • 大文字 / 小文字を切り替えた際も、キーボードは大文字表示のまま変化しません。
ENT	入力したパスワード / ユーザ ID を確定します。
LEVEL **（要求レベル表示）**	表示しようとしている画面のセキュリティレベル（要求レベル）を表示します。  **MEMO** • 内部デバイスアドレスを用いて現在のレベルおよび要求レベルを知ることができます。それぞれのレベルの値は以下の内部デバイスアドレスに格納されています。 LS9301 — **現在のセキュリティレベル** LS9302 — **要求されているセキュリティレベル** LS9301、LS9302 は読み込み専用です。LS9302 にはパスワードの要求があった場合にセキュリティレベルが格納され、パスワードの入力が終わると 0 に戻ります。

■ ユーザ ID& パスワード入力ウィンドウ



表示	内容
LEVEL **（要求レベル表示）**	表示しようとしている画面のセキュリティレベル（要求レベル）を表示します。  **MEMO** • 内部デバイスアドレスを用いて現在のレベルおよび要求レベルを知ることができます。それぞれのレベルの値は以下の内部デバイスアドレスに格納されています。 LS9301 — **現在のセキュリティレベル** LS9302 — **要求されているセキュリティレベル** LS9301、LS9302 は読み込み専用です。LS9302 にはユーザ ID とパスワードの要求があった場合にセキュリティレベルが格納され、ユーザ ID とパスワードの入力が終わると 0 に戻ります。
User ID **(ユーザ ID 入力)**	入力部分をタッチして、ユーザ ID 入力ウィンドウを表示します。また、ユーザ ID 入力ウィンドウで入力したユーザ ID を表示します。
Password **（パスワード入力）**	入力部分をタッチして、パスワード入力ウィンドウを表示します。また、パスワード入力ウィンドウで入力したパスワードを * 印で表示します。
OK	入力されたユーザ ID とパスワードのチェックを行い、セキュリティレベル（要求レベル）と合っていれば画面を表示します。 **MEMO** 次のような場合は、エラーメッセージが表示されます。 ・登録されていないユーザ ID を入力している ・入力したユーザ ID が要求レベルと合っていない ・ユーザ ID に設定されているパスワードと違うパスワードを入力している
Cancel	ユーザ ID& パスワード入力ウィンドウを閉じて元の画面に戻ります。

21.7 設定ガイド

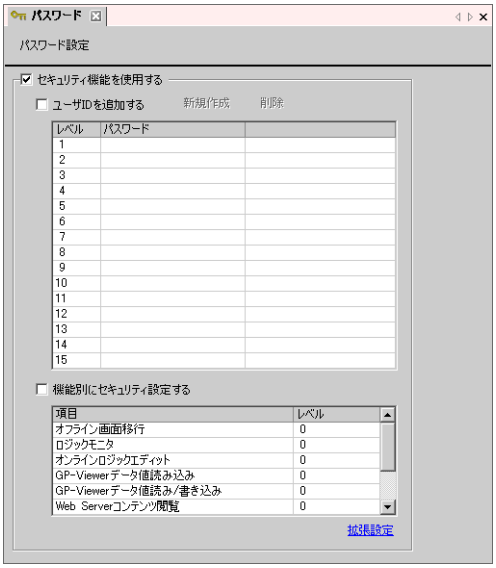
21.7.1 共通設定（セキュリティ設定）の設定ガイド

■ パスワード設定

15 段階のセキュリティレベルでパスワードとユーザ ID を設定します。

[ユーザ ID を追加する] 設定により、「レベルモード」または「ユーザ ID モード」が表示されます。

< レベルモード >



< ユーザ ID モード >

設定項目		設定内容
セキュリティ機能を使用する		セキュリティ機能を使用するかどうかを指定します。
ユーザ ID を追加する		レベル設定にユーザ ID を追加するかどうかを指定します。
	レベル / パスワード	**<レベルモードの場合>** レベル 1 ～ 15 にパスワードを設定します。 入力できるパスワードは半角英数字 8 文字以内です。大文字、小文字は区別されます。 パスワードは必要なレベルだけを設定できます。すべてのレベルを設定する必要はありません。 **MEMO** • レベルモード時は同じパスワードを複数のセキュリティレベルに指定できません。 • セキュリティレベル 15 にパスワードを設定しておくと、GP 上（オフラインモード）ですべてのセキュリティレベルのパスワード変更ができます。

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="2">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="2">ユーザ ID を追加する</td><td>レベル / パスワード / ユーザ ID</td><td><ユーザ ID モードの場合>
最大 64 個まで登録できます。
レベルは 1 ～ 15 の範囲で任意に設定します。
入力できるパスワードとユーザ ID は半角英数字 8 文字以内です。大文字、小文字は区別されます。
MEMO
• ユーザ ID モード時は同じパスワードを複数のセキュリティレベルに指定できますが、同じユーザ ID は複数のセキュリティレベルに指定できません。
• レベルモードからユーザ ID モードに変更した場合、既にパスワードを設定している行のみユーザ ID モードで登録されます。
重 要
• 一度 [ユーザ ID を追加する] にチェックをした後チェックを外そうとすると、パスワード設定の登録内容を全て削除する警告メッセージが表示されます。「はい」を選択すると、登録内容が全て削除されます。</td></tr>
<tr><td>新規作成 / 削除</td><td>[ユーザ ID を追加する] にチェックを入れると [新規作成]、[削除] の表示が有効になります。[新規作成] を選択すると、パスワード・ユーザ ID の登録行が 1 行追加されます。[削除] を選択すると、指定している行が削除されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">機能別にセキュリティ設定する</td><td>機能別にセキュリティ設定をするかどうかを指定します。
設定できる機能は次のとおりです。
<table><tr><th>項目</th><th>機能</th></tr><tr><td>オフライン画面移行</td><td>オフライン機能</td></tr><tr><td>ロジックモニタ</td><td>ロジック機能</td></tr><tr><td>オンラインロジックエディット</td><td>ロジック機能</td></tr><tr><td>GP-Viewer データ値読み込み</td><td>GP-Viewer 機能</td></tr><tr><td>GP-Viewer データ値読み / 書き込み</td><td>GP-Viewer 機能</td></tr><tr><td>Web Server コンテンツ閲覧</td><td>Web Server 機能</td></tr><tr><td>Web Server データ値読み込み</td><td>Web Server 機能</td></tr><tr><td>Web Server データ読み / 書き込み</td><td>Web Server 機能</td></tr><tr><td>FTP フォルダ内のファイル閲覧</td><td>FTP 機能</td></tr><tr><td>FTP フォルダ内のファイル登録・削除</td><td>FTP 機能</td></tr></table></td></tr>
<tr><td></td><td>レベル</td><td>セキュリティ設定をする機能のレベルを指定します。
MEMO
• セキュリティレベル 0 は、セキュリティがかかっていない状態です。
<レベル 0 またはレベル 15>
「オフライン画面移行」では、レベル 0 またはレベル 15 のどちらかを設定します。レベル 15 を設定するには、レベル 15 のパスワード設定が必要です。設定されていない場合には、次のエラーメッセージが表示されます。
</td></tr>
</table>

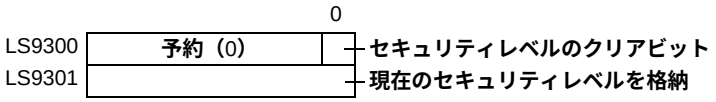
次のページに続きます。

設定項目		設定内容
	レベル	< **レベル** 0 ～ **レベル** 15> ロジック機能、GP-Viewer 機能、Web Server 機能、FTP 機能では、セキュリティレベルを 0 ～ 15 の範囲で設定できます。ただし、各機能により以下のレベル設定基準があります。 • **ロジックモニタとオンラインロジックエディット** 常に同じレベルか、もしくはオンラインロジックエディットがレベルの高い設定しかできません。 • GP-Viewer **データ値読み込みと** GP-Viewer **データ値読み / 書き込み** 常に同じレベルか、もしくは GP-Viewer データ値読み / 書き込みがレベルの高い設定しかできません。 • Web Server **コンテンツ閲覧と** Web Server **データ値読み込みと** Web Server **データ値読み / 書き込み** 常に同じレベルか、もしくは Web Server データ値読み / 書き込みがレベルの高い設定しかできません。 • FTP **フォルダ内のファイル閲覧と** FTP **フォルダ内のファイル登録・削除** 常に同じレベルか、もしくは FTP フォルダ内のファイル登録・削除がレベルの高い設定しかできません。
拡張設定		[拡張設定] ダイアログボックスを表示します。 ☞「◆ **拡張設定**」(21-21 **ページ**)

◆拡張設定

設定項目	設定内容
通知ビットを使用する	接続機器から画面切り替えを行って表示されたパスワード入力ウィンドウが、[ESC] キーによってキャンセルされたことを通知する機能を使用する場合に指定します。 タッチによる画面切り替え時には動作しません。
通知ビットアドレス	接続機器からの制御で表示されたパスワード入力ウィンドウを [ESC] キーでキャンセルした場合、指定した通知ビットアドレスが ON します。 システム設定ウィンドウの [本体設定] ― [表示設定] タブで、[接続機器へ反映] を設定していない場合は、この通知ビット ON を監視して、接続機器にて「切替画面番号」※1 を「表示中画面番号」と同じ番号に戻す処理を行ってください。 同一の画面番号に戻るとパスワード入力ウィンドウが自動的に閉じます。

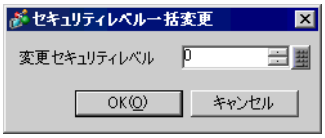
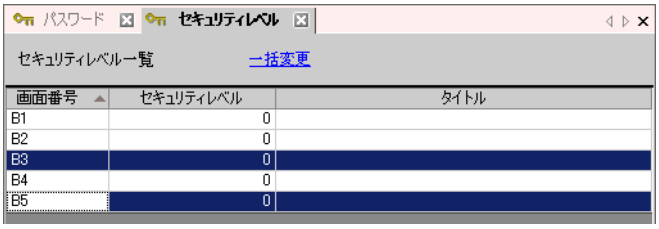
次のページに続きます。

設定項目	設定内容
自動クリア時間	指定した時間で GP 上での操作や画面切り替えなどが行われない場合にセキュリティレベルを 0 に戻します。自動クリア時間は、1 ～ 60 分で指定できます。 **MEMO** • 自動クリア時間が「0」に設定されている場合、セキュリティレベルの自動クリアを行いません。 • 内部デバイスアドレスのビット操作でクリア LS9300 の 0 ビット目を OFF → ON するとセキュリティレベルのクリアが行われ、LS9301 に格納されている現在のセキュリティレベルが 0 になります。セキュリティレベルのクリア完了後、LS9300 の 0 ビット目を OFF に戻してください。（LS9301 は読み込み専用です） 

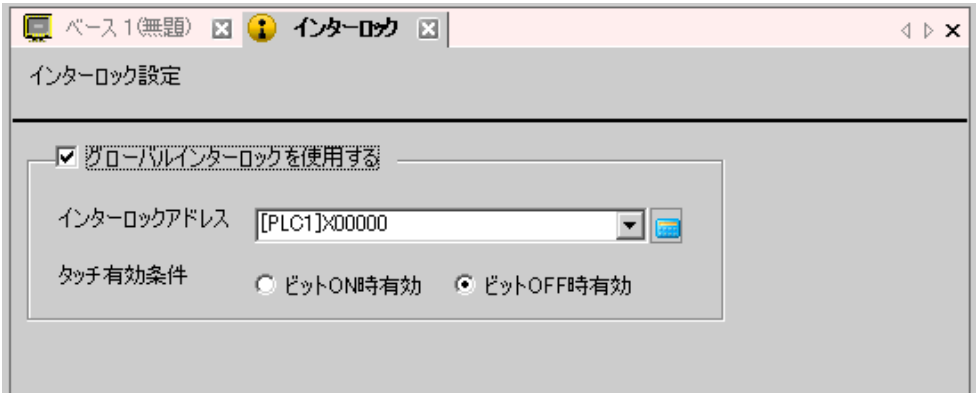
※1 [切替画面番号] を接続機器で操作するにはシステムデータエリアを設定してください。

☞「5.15.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ◆ システムエリア設定」（5-147 ページ）

■ セキュリティレベル一覧

設定項目	設定内容
画面番号	作成された画面番号が表示されます。
セキュリティレベル	各画面のセキュリティレベルを設定します。 **MEMO** • 複数の画面に同じセキュリティレベルを設定する場合は [一括変換] をご使用ください。
タイトル	各画面のタイトルが表示されます。
一括変換	セキュリティレベルを一括で変換します。変換する複数の画面を選択し、[一括変換] をクリックすると、セキュリティレベルを指定するダイアログボックスが表示されます。  **MEMO** • 複数の画面を選択するには、カーソルをドラッグするか、Ctrl キーを押しながら行を選択します。 

■ インターロック設定



設定項目	設定内容
グローバルインターロックを使用する	グローバルインターロックを使用するかどうかを設定します。 MEMO • [インターロックアドレス] のビットが [タッチ有効条件] で指定した状態の場合のみタッチ操作が許可される機能です。
インターロックアドレス	入力を許可するタッチの有効条件となるビットアドレス（ビットアドレスであれば全て設定可）を指定します。このアドレスの状態によりタッチが有効（無効）になります。
タッチ有効条件	入力を許可するタッチが有効となる条件を選択します。

タッチ有効条件	インターロックアドレスの状態	タッチの有効／無効
ビット ON 時有効	ON	タッチ有効
	OFF	タッチ無効
ビット OFF 時有効	ON	タッチ無効
	OFF	タッチ有効

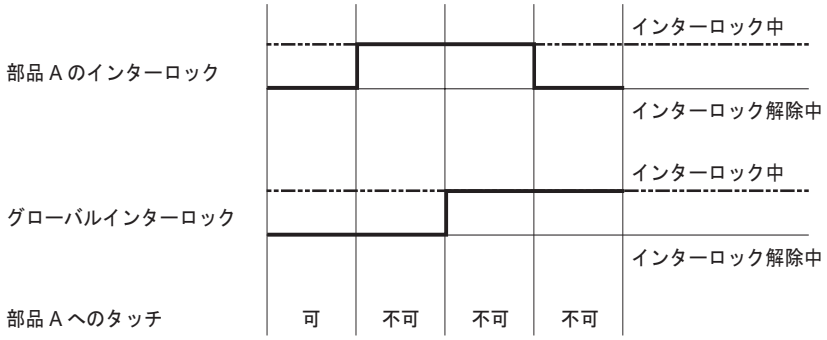
■ グローバルインターロックのタッチ有効条件について

同じプロジェクト内で使用する部品の設定条件や外部接続機器との接続状況により、タッチの有効 / 無効が異なります。ここでは、設定状況別にタッチの有効 / 無効について説明します。

◆部品のインターロックとの併用

個別の部品に設定するインターロックとグローバルインターロックの併用はできますが、併用した場合、グローバルインターロックが優先されます。

たとえば、個別の部品に対するインターロックは解除されていても、グローバルインターロック中の場合、その部品へのタッチは無効になります。

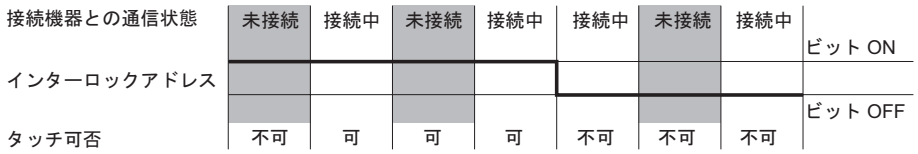


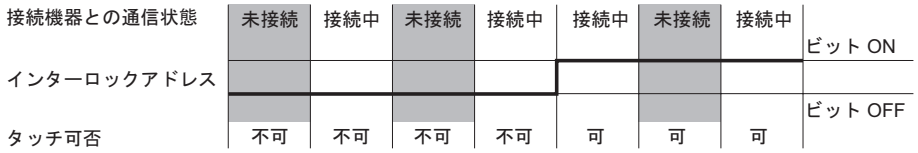
◆外部接続機器のアドレスを指定

グローバルインターロックアドレスに外部接続機器のアドレスを指定した場合、その接続機器との通信が確立するまでタッチ有効条件の判定ができません。このため、通信が確立するまでは [ビット ON 時有効]/[ビット OFF 時有効] の設定に関係なく、グローバルインターロック中となります。

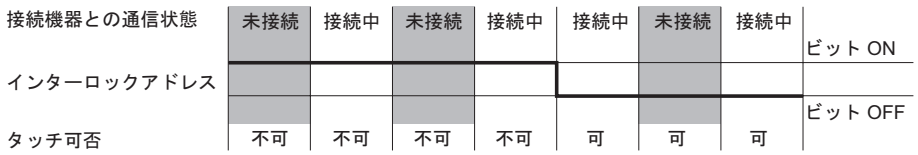
ただし、一度通信が確立した後に切断した場合は、切断前の状態を引き継ぎます。

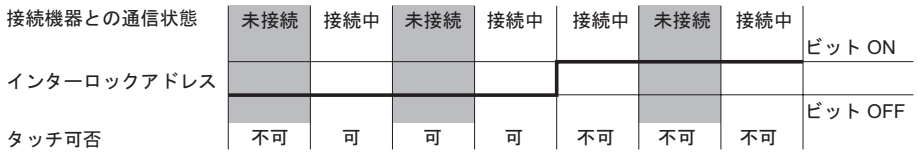
- タッチ有効条件：ビット ON 時有効





- タッチ有効条件：ビット OFF 時有効





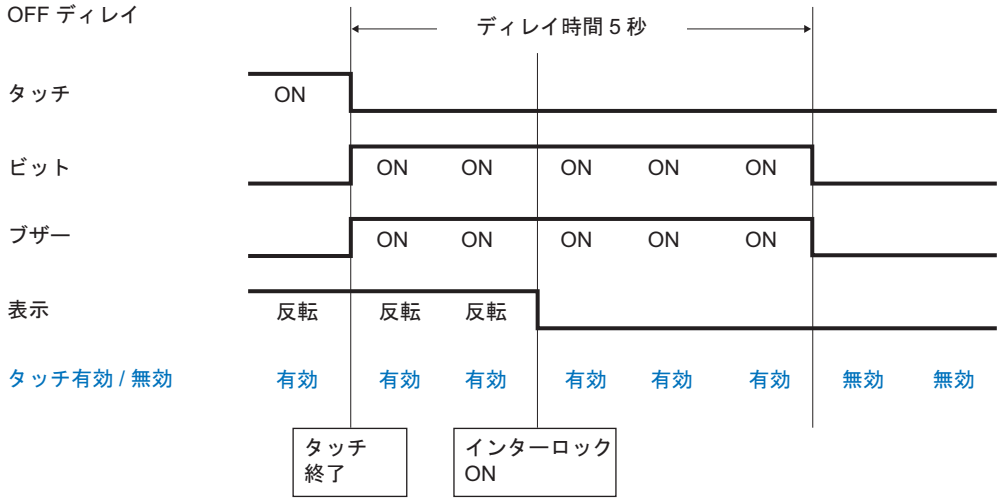
MEMO

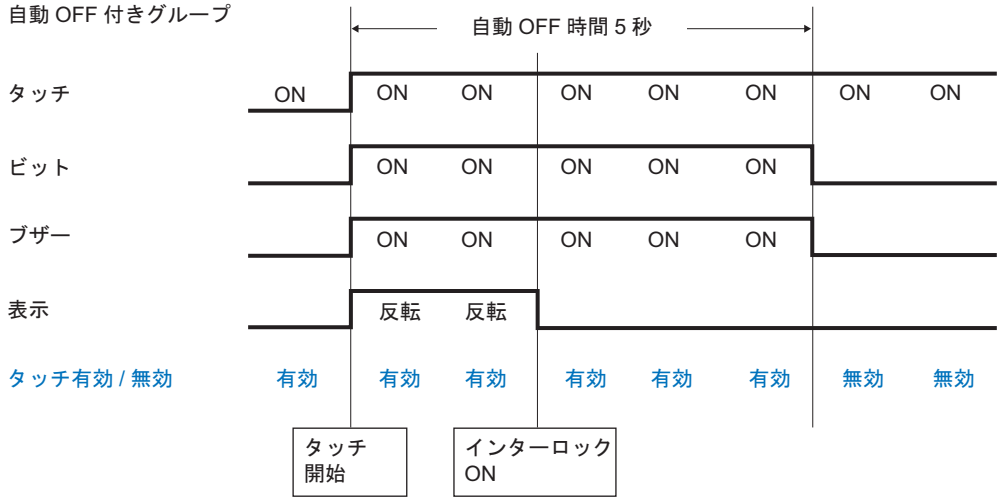
- マルチ PLC 接続の場合でも、グローバルインターロックアドレスにアドレスを割り付けた PLC との通信が確立していれば、他の PLC との通信が確立していなくてもグローバルインターロックは動作します。
- 各部品のインターロック中状態の表示設定は、その部品のインターロック条件にのみ適用されます。グローバルインターロック中には適用されません。

◆ディレイまたは自動 OFF 付グループ機能を有効にした部品の設定

部品の動作中にグローバルインターロック状態（タッチ無効）になったとき、動作中の部品が動作完了するまでタッチ有効になる場合と、動作中にタッチ無効になる場合があります。

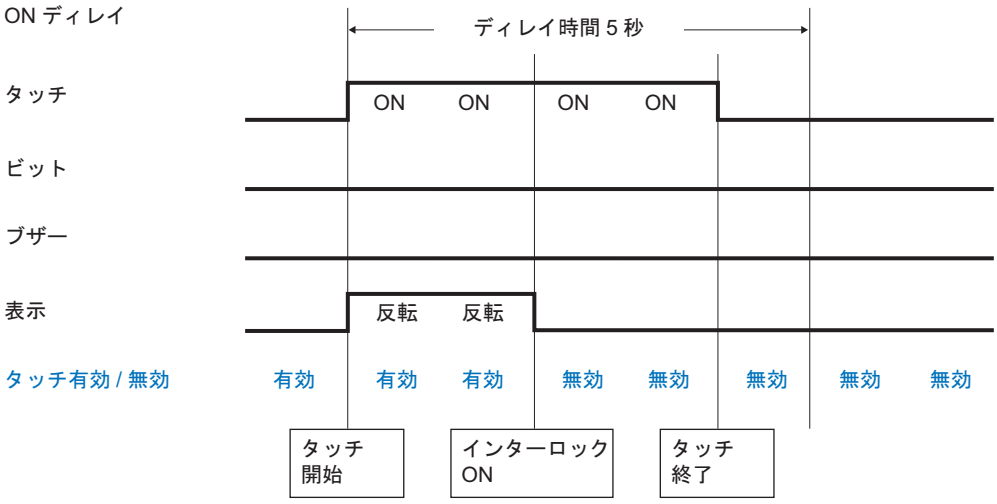
- OFF ディレイ、自動 OFF 付グループ機能
  OFF ディレイ、自動 OFF 付グループ機能を有効にした部品が、モーメンタリ中にグローバルインターロック状態（タッチ無効）になった場合、ディレイ中または自動 OFF 中はモーメンタリ動作が優先されます。ディレイ完了または自動 OFF 設定時間が経過するまでは、グローバルインターロック状態（タッチ無効）にはなりません。

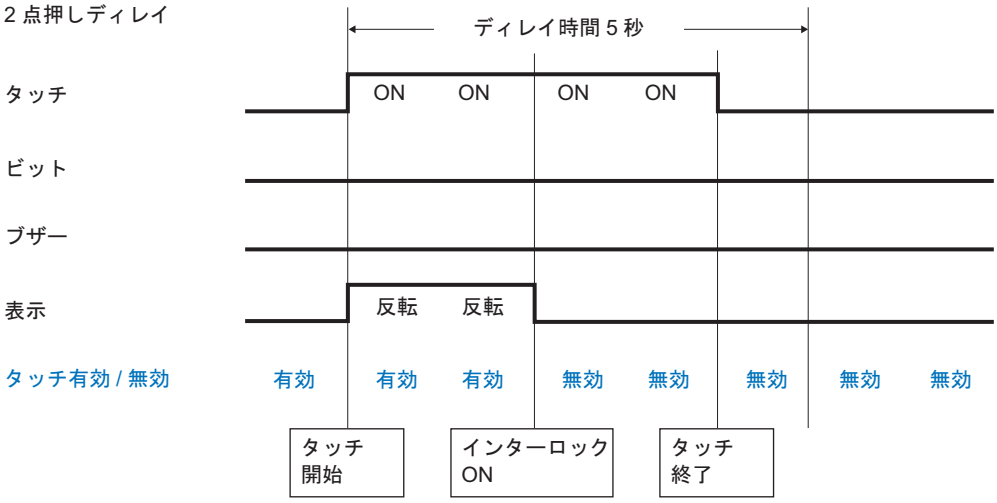




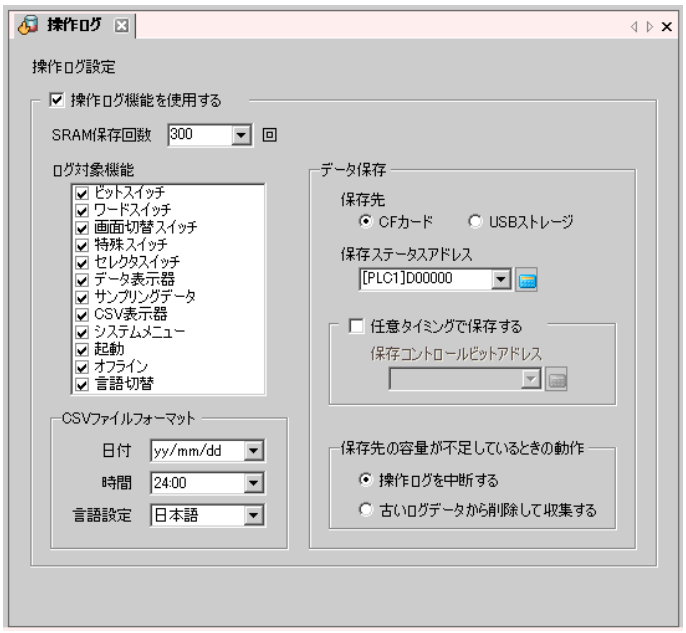
自動 OFF 時間経過前にタッチ終了した場合、タッチ終了時点からタッチ無効となります。

- ON ディレイ、2 点押しディレイ機能
  ON ディレイ、2 点押しディレイ機能では、ディレイ中にグローバルインターロック状態（タッチ無効）になった場合は、ディレイ状態がキャンセルされ、グローバルインターロック状態（タッチ無効）になります。



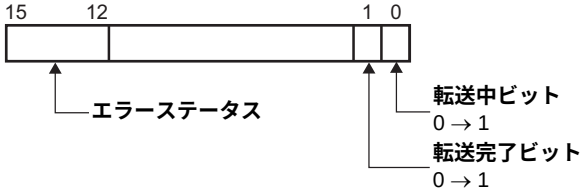


21.7.2 共通設定（操作ログ設定）の設定ガイド



設定項目		設定内容
操作ログ機能を使用する		操作ログ機能を使用するかどうかを指定します。
SRAM **保存回数**		SRAM に保存する回数を 100、200、300、400、500 から選択します。 **MEMO** • 設定した回数により GP 内の SRAM の容量が決まります。
ログ対象機能		操作ログの対象となる機能を [ビットスイッチ]、[ワードスイッチ]、[画面切替スイッチ]、[特殊スイッチ]、[セレクタスイッチ]、[データ表示器]、[サンプリングデータ表示器]、[CSV 表示器]、[システムメニュー]、[起動]、[オフライン]、[言語切替] から選択します。 **MEMO** • 初期設定では、全ての機能が操作ログの対象になります。
データ保存	**保存先**	操作ログを CSV 形式に変換して出力するとき、また SRAM 保存回数を超えたときの保存先を [CF カード]、[USB ストレージ] から選択します。

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="2">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="4">データ保存</td><td>保存ステータスアドレス</td><td>CF カードまたは USB ストレージへの書き込み状況を確認するためのアドレスを指定します。
• ステータス
[コントロール] アドレスのビット 0 を ON すると、[ステータス] アドレスのビット 0 が ON されます。[コントロール] アドレスの状態確認後、[ステータス] アドレスのビットを ON しないと書き込みできません。
 

エラーステータスは次の状態を示します。
〈エラーコード〉
<table>
<tr><th>ビット 12 ～ 15</th><th>内容</th><th>詳細</th></tr>
<tr><td>0000</td><td>正常終了</td><td>バックアップ処理が正常終了したとき</td></tr>
<tr><td>0100</td><td>CF カード /USB ストレージなし</td><td>バックアップ時に CF カード /USB ストレージが挿入されていないか、CF カードのハッチが開いているとき</td></tr>
<tr><td>0101</td><td>CF カード /USB ストレージ書き込みエラー</td><td>バックアップ時に CF カード /USB ストレージの容量が足りないか、書き込み中に CF カード /USB ストレージが抜かれたとき</td></tr>
<tr><td>0111</td><td>CF カード /USB ストレージエラー</td><td>CF カード /USB ストレージが未フォーマットのとき、またはその他のエラー</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>任意のタイミングで保存する</td><td>任意のタイミングで操作ログを保存したい場合、設定したタイミングで保存するかどうかを指定します。</td></tr>
<tr><td>保存コントロールビットアドレス</td><td>指定したビットを ON すると CF カードまたは USB ストレージへ書き込み処理が開始されます。</td></tr>
<tr><td>保存先の容量が不足しているときの動作</td><td>CF カードまたは USB ストレージの容量が不足した場合の動作を指定します。
• 操作ログを中断する
保存先に操作ログをファイル出力することを中断します。次に操作を行うと完全に操作ログの収集を停止して、収集を行いません。
• 古いログデータから削除して収集する
CF カードまたは USB ストレージに保存されているうち、一番古いファイルを削除してから、SRAM 内のデータを保存します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">CSV ファイルフォーマット設定</td><td>CSV 形式で保存するときの表示形式を設定します。</td></tr>
<tr><td></td><td>日付</td><td>日付の表示形式を mm/dd/yy（月 / 日 / 年）、mm/dd（月 / 日）、yy/mm/dd（年 / 月 / 日）、dd/mm/yy（日 / 月 / 年）から選択します。</td></tr>
<tr><td></td><td>時間</td><td>時間の表示形式を 12:00、24:00 から選択します。</td></tr>
<tr><td></td><td>言語設定</td><td>言語フォーマットを日本語、欧米、中国語（繁体字）、中国語（簡体字）、韓国語、キリル文字、タイ語から選択します。</td></tr>
</table>

■ 操作ログについて

◆取得データの種類と内容

タッチ操作の情報としてログに記録される機能は次のとおりです。

機能	動作		Action
ビットスイッチ	ビットセット		Bit Set
	ビットリセット		Bit Rst
	ビットモーメンタリ		Bit Mom
	ビット反転		Bit Rvs
	比較		Bit Comp
ワードスイッチ	ワード書き込み		Word Write
	ワード加算		Word Add
	ワード連続加算		Word Add++
	ワード減算		Word Sub
	ワード連続減算		Word Sub--
	桁加算		Digit Add
	桁連続加算		Digit Add++
	桁減算		Digit Sub
	桁連続減算		Digit Sub--
	演算		Word Ope
画面切替スイッチ	前画面に戻る		Scrn Prev
	画面切り替え		Scrn Chg
特殊スイッチ	アラーム履歴用スイッチ	確認	Alm Ack
		クリア	Alm Clr
	ファイル項目用スイッチ	SRAM →接続機器に転送	SRAM->PLC
		SRAM →内部アドレスに転送	SRAM->ADDR
		接続機器→ SRAM に転送	PLC->SRAM
		接続機器→内部アドレスに転送	PLC->ADDR
		内部アドレス→ SRAM に転送	ADDR->SRAM
		内部アドレス→接続機器に転送	ADDR->PLC
	データ転送用スイッチ	外部ストレージ→接続機器に転送	Ex Mem -> PLC
		接続機器→外部ストレージに転送	PLC -> Ex Mem

次のページに続きます。

機能	動作		Action
特殊スイッチ	モニタ起動スイッチ	ラダーモニタ	Bit set
		ラダーモニタ（キャッシュ）	
		デバイスモニタ	Bit set
	アプリケーションの起動		App On
	WinGP の終了		Win End
	リセット		Reset
	オフライン		Off Line
セレクタスイッチ			Bit Slct
データ表示器	タッチ・バーコード入力 (データ編集）		Data Input
サンプリングデータ表示器	サンプリングデータ表示器 (データ編集）		Samp Input
CSV 表示器	CSV 表示器（データ編集）		CSV Input
システムメニュー	オフライン		Offline
	リセット		Reset
	アドレスモニタ		Addr Mon
	ロジックモニタ		Logi Mon
	ラダーモニタ		Lad Mon
	デバイスモニタ		Dev Mon
	CF 起動		CF Start
	USB 起動		USB Start
起動	本体起動		Power On
	転送からの復帰		Trans Ret
オフライン	オフラインへ移行		Off Chg
	オフラインからの復帰		Off Ret
言語切替	言語切替		Lang Chg

<CSV ファイルの出力例 >

Number	Date	Time	User ID	Level	Screen	Parts ID	Comment	Action	Address
1	07/12/22	13:54		0	B1	SL_0001		Bit Set	[PLC1]M0000
2	07/12/22	13:54		0	B1	SL_0002		Bit Rst	[PLC1]M0001
3	07/12/22	13:55	YAMADA	3	B1	SL_0003	ﾚﾍﾞﾙ 3 ｽｲｯﾁ	Bit Mom	

< 項目と内容 >

項目	内容
Number	ログ番号です。
Date	操作したときの日付を [操作ログ設定] で設定した形式で表示します。
Time	操作したときの時刻を [操作ログ設定] で設定した形式で表示します。
User ID	「ユーザ ID モード」（ユーザ ID を追加する）で登録したユーザ ID を表示します。 「レベルモード」（ユーザ ID を追加しない）の場合は空白になります。
Level	操作時のレベルを 0 ～ 15 で表示します。
Screen	操作時の画面番号をベース画面は B**、ウィンドウ画面は W** で表示します。
Parts ID	パーツ ID を表示します。
Comment	パーツのコメントを表示します。登録されていない場合は空白になります。
Action	動作を表示します。 ☞「◆ 取得データの種類と内容」（21-30 ページ）
Address	対象となるアドレスを表示します。
Sub Info	Address や Action についての補足説明が必要な場合に表示されます。
Prev Value	前回の値を表示します。
Chg Value	変更した値を表示します。ビットアドレスの場合は ON または OFF、ワードアドレスの場合は数値を表示します。数値の表示形式は、使用した部品の表示属性により異なります。

MEMO

- 「Number」はファイル内で連番処理されます。
- 項目名は英語の固定表記になります。

◆機能別操作ログの内容

< ビットスイッチ >

対象：ビットセット、ビットリセット、ビットモーメンタリ、ビット反転、比較

MEMO

・ 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「10.14.1 **ビットスイッチ**」（10-44 **ページ**）

項目	内容
Number Date Time User ID Level Screen Parts ID Comment Action	共通項目です。 ☞「< **項目と内容** >」（21-32 **ページ**）
Address	対象となるアドレスを表示します。 **外部機器アドレス**　：[PLC1]*****、[# MEMLINK]***** **シンボル**　：操作開始 **変数**　：運転開始 **システム変数**　：# H*****、#L *****
Sub Info	**ビットセット**　：非表示 **ビットリセット**　：非表示 **ビットモーメンタリ**　：非表示 **ビット反転**　：非表示 **比較**　：比較用ワードアドレスと比較条件の定数を表示 < 表示例 > [PLC1]D0001　（ｽﾍﾟｰｽ）＜（ｽﾍﾟｰｽ）10 （比較用ワードアドレス　比較条件　定数）
Prev Value	非表示
Chg Value	**ビットセット**　：ON **ビットリセット**　：OFF **ビットモーメンタリ**　：（押した時）ON （離した時）OFF ※ ビットモーメンタリでは ON の時と OFF の時で別々にログを取得します。 **ビット反転**　：非表示 **比較**　：ON または OFF

< ワードスイッチ >

対象：ワード書き込み、ワード加算、ワード連続加算、ワード減算、ワード連続減算、桁加算、桁連続加算、桁減算、桁連続減算、演算

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「10.14.2 **ワードスイッチ**」(10-58 **ページ**)

項目	内容
Number Date Time User ID Level Screen Parts ID Comment Action	共通項目です。 ☞「< **項目と内容** >」(21-32 **ページ**)
Address	対象となるアドレスを表示します。 **外部機器アドレス** ：[PLC1]*****、[# MEMLINK]***** **シンボル** ：操作開始 **変数** ：運転開始 **システム変数** ：# H*****、#L *****
Sub Info	**ワード書き込み** ：非表示 **ワード加算** ：加算元ワードアドレス ＋ 定数を表示 **ワード減算** ：減算元ワードアドレス － 定数を表示 **桁加算** ：桁位置を表示 **桁減算** ：桁位置を表示 **演算** ：演算元ワードアドレスと定数を表示 < 表示例 > [PLC1]D0001 (ｽﾍﾟｰｽ) AND (ｽﾍﾟｰｽ) 10 (演算元ワードアドレス 演算子 定数) **ワード連続加算** ：加算元ワードアドレスと定数と ON/OFF を表示。 **ワード連続減算** ：減算元ワードアドレスと定数と ON/OFF を表示。 **桁連続加算** ：押されたとき 桁位置 ON 離されたとき 桁位置 OFF **桁連続減算** ：押されたとき 桁位置 ON 離されたとき 桁位置 OFF ☞「10.14.2 **ワードスイッチ ◆ 演算**」(10-60 **ページ**)
Prev Value	非表示
Chg Value	**ワード書き込み、桁加算、桁連続加算、桁減算、桁連続減算**：書き込み値を表示 **ワード加算、ワード連続加算、ワード減算、ワード連続減算、演算**：非表示

< 画面切替スイッチ >

対象：前画面に戻る、画面切替

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「10.14.3 **画面切替スイッチ**」(10-61 **ページ**)

項目	内容
Number	共通項目です。 ☞「< **項目と内容** >」(21-32 **ページ**)
Date	
Time	
User ID	
Level	
Screen	
Parts ID	
Comment	
Action	
Address	非表示
Sub Info	非表示
Prev Value	**前画面に戻る** ：変更する前の画面番号を表示 **画面切替** ：変更する前の画面番号を表示
Chg Value	**前画面に戻る** ：変更した画面番号を表示（前画面がない場合は 0 を表示） **画面切替** ：変更した画面番号を表示

< 特殊スイッチ（アラーム）>

対象：確認、クリア

MEMO

・ 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「10.14.4 特殊スイッチ ◆ アラーム履歴用スイッチ」（10-64 ページ）

項目	内容
Number	共通項目です。 ☞「< 項目と内容 >」（21-32 ページ）
Date	
Time	
User ID	
Level	
Screen	
Parts ID	
Comment	
Action	
Address	非表示
Sub Info	動作により次のように表示されます。 **アラーム履歴確認（確認）** ：Ack **アラーム履歴確認（全確認）** ：Ack All **アラーム履歴クリア（クリア）** ：Clr **アラーム履歴クリア（全クリア）** ：Clr All **アラーム履歴クリア（復旧アラームクリア）** ：Clr Rcv **アラーム履歴クリア（確認アラームクリア）** ：Clr Ack **アラーム履歴クリア（全復旧アラームクリア）** ：Clr All Rcv **アラーム履歴クリア（全確認アラームクリア）** ：Clr All Ack **アラーム履歴クリア（発生回数全てクリア）** ：Clr All Cnt **アラーム履歴クリア（発生回数個別クリア）** ：Clr One Cnt **アラーム履歴クリア（累積時間全てクリア）** ：Clr All Time **アラーム履歴クリア（累積時間個別クリア）** ：Clr One Time
Prev Value	非表示
Chg Value	非表示

< 特殊スイッチ（ファイル項目用スイッチ）>

対象：SRAM →接続機器に転送、SRAM →内部アドレスに転送、接続機器→ SRAM に転送、接続機器→内部アドレスに転送、内部アドレス→ SRAM に転送、内部アドレス→接続機器に転送

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「10.14.4 **特殊スイッチ ◆ ファイル項目用スイッチ**」(10-66 **ページ**)

項目	内容
Number Date Time User ID Level Screen Parts ID Comment Action	共通項目です。 ☞「< **項目と内容** >」(21-32 **ページ**)
Address	非表示
Sub Info	SRAM **→接続機器に転送** ：< 表示例 > ファイル番号（スペース）項目名（スペース） 格納先頭アドレス SRAM **→内部アドレスに転送** ：< 表示例 > ファイル番号（スペース）項目名（スペース） 格納先頭アドレス **接続機器→** SRAM **に転送** ：< 表示例 > ファイル番号（スペース）項目名（スペース） 格納先頭アドレス **接続機器→内部アドレスに転送** ：< 表示例 > ファイル番号（スペース）項目名（スペース） 格納先頭アドレス **内部アドレス→** SRAM **に転送** ：< 表示例 > ファイル番号（スペース）項目名（スペース） 格納先頭アドレス **内部アドレス→接続機器に転送** ：< 表示例 > ファイル番号（スペース）項目名（スペース） 格納先頭アドレス
Prev Value	非表示
Chg Value	非表示

< 特殊スイッチ（データ転送用スイッチ）>

対象：CF →接続機器に転送、接続機器→ CF に転送、USB →接続機器に転送、接続機器→ USB に転送

MEMO

• 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「10.14.4 **特殊スイッチ ◆ データ転送用スイッチ**」（10-67 **ページ**）

項目	内容
Number	共通項目です。 ☞「< **項目と内容** >」（21-32 **ページ**）
Date	
Time	
User ID	
Level	
Screen	
Parts ID	
Comment	
Action	
Address	非表示
Sub Info	CF **カード→** CF USB **ストレージ→** USB
Prev Value	非表示
Chg Value	非表示

< 特殊スイッチ（モニタ起動スイッチ）>

対象：ラダーモニタ、ラダーモニタ（キャッシュ）、デバイスモニタ

MEMO

• 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「10.14.4 **特殊スイッチ ◆ モニタ起動スイッチ**」（10-69 **ページ**）

項目	内容
Number	共通項目です。 ☞「< **項目と内容** >」（21-32 **ページ**）
Date	
Time	
User ID	
Level	
Screen	
Parts ID	
Comment	
Action	
Address	対象となるアドレスを表示します。
Sub Info	非表示
Prev Value	非表示
Chg Value	ON

< 特殊スイッチ（その他）>

対象：アプリケーション起動、WinGP の終了、リセット、オフライン

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「10.14.4 特殊スイッチ ■ スイッチ機能」（10-62 ページ）

項目	内容
Number	共通項目です。 ☞「< 項目と内容 >」（21-32 ページ）
Date	
Time	
User ID	
Level	
Screen	
Parts ID	
Comment	
Action	
Address	非表示
Sub Info	**アプリケーション起動** ：実行した EXE 名を表示します。 EXE パスの最終 ¥ 以下の文字列を表示します。 WinGP **の終了** ：非表示 **リセット** ：非表示 **オフライン** ：非表示
Prev Value	非表示
Chg Value	非表示

< セレクタスイッチ >

MEMO

• 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「10.14.5 セレクタスイッチ」（10-71 ページ）

項目	内容
Number Date Time User ID Level Screen Parts ID Comment Action	共通項目です。 ☞「< 項目と内容 >」（21-32 ページ）
Address	対象となるアドレスを表示します。 **外部機器アドレス**　：[PLC1]*****、[# MEMLINK]***** **シンボル**　：操作開始 **変数**　：運転開始 **システム変数**　：# H*****、#L *****
Sub Info	非表示
Prev Value	非表示
Chg Value	ON

< データ表示器 >

対象：データ表示器のタッチ入力・バーコード入力を使用した場合の数値または文字入力、バーコード入力

項目	内容
Number Date Time User ID Level Screen Parts ID Comment Action	共通項目です。 ☞「< 項目と内容 >」（21-32 ページ）
Address	対象となるアドレスを表示します。 **外部機器アドレス**　：[PLC1]*****、[# MEMLINK]***** **シンボル**　：操作開始 **変数**　：運転開始 **システム変数**　：# H*****、#L *****
Sub Info	非表示
Prev Value	**タッチ入力**　：入力確定する前の数値または文字列を最大 100 文字で表示します。 **バーコード入力**　：前回のバーコード値を最大 100 文字で表示します。 **MEMO** • 入力確定をしていない場合、前回値のみの操作ログは取得しません。
Chg Value	**タッチ入力**　：確定した数値または文字列を最大 100 文字で表示します。 **バーコード入力**　：バーコード入力した値を最大 100 文字で表示します。

< サンプリングデータ表示器（データ編集）>

対象：サンプリングデータ表示器でデータ編集した場合

項目	内容
Number	共通項目です。 ☞「< 項目と内容 >」（21-32 ページ）
Date	
Time	
User ID	
Level	
Screen	
Parts ID	
Comment	
Action	
Address	非表示
Sub Info	非表示
Prev Value	非表示
Chg Value	非表示

<CSV 表示器（データ編集）>

対象：CSV 表示器でデータ編集した場合

項目	内容
Number	共通項目です。 ☞「< 項目と内容 >」（21-32 ページ）
Date	
Time	
User ID	
Level	
Screen	
Parts ID	
Comment	
Action	
Address	非表示
Sub Info	非表示
Prev Value	非表示
Chg Value	非表示

< システムメニュー >

対象：オフライン、リセット、アドレスモニタ、ロジックモニタ、ラダーモニタ、デバイスモニタ、CF 起動、USB 起動

項目	内容
Number	共通項目です。 ☞「< 項目と内容 >」（21-32 ページ）
Date	
Time	
User ID	
Level	
Screen	非表示
Parts ID	非表示
Comment	非表示
Action	共通項目です。 ☞「< 項目と内容 >」（21-32 ページ）
Address	非表示
Sub Info	非表示
Prev Value	非表示
Chg Value	非表示

< 起動 >

対象：本体起動、転送からの起動

項目	内容
Number	共通項目です。 ☞「< 項目と内容 >」（21-32 ページ）
Date	
Time	
User ID	非表示
Level	非表示
Screen	非表示
Parts ID	非表示
Comment	非表示
Action	共通項目です。 ☞「< 項目と内容 >」（21-32 ページ）
Address	非表示
Sub Info	非表示
Prev Value	非表示
Chg Value	非表示

MEMO

- オフラインメニューのプロジェクトファイルの転送画面からデータ転送した場合、操作ログには記録されません。

< オフライン >

対象：オフライン移行（WinGP の右クリックメニューも含む)、オフラインからの復帰

項目	内容
Number	共通項目です。 ☞「< 項目と内容 >」(21-32 ページ)
Date	
Time	
User ID	
Level	**オフライン移行**　：操作時のレベルを表示 **オフラインからの復帰**　：0 を表示
Screen	非表示
Parts ID	非表示
Comment	非表示
Action	共通項目です。 ☞「< 項目と内容 >」(21-32 ページ)
Address	非表示
Sub Info	テーブル名
Prev Value	非表示
Chg Value	非表示

< 言語切替 >

対象：言語切替

項目	内容
Number	共通項目です。 ☞「< 項目と内容 >」(21-32 ページ)
Date	
Time	
User ID	
Level	
Screen	非表示
Parts ID	非表示
Comment	非表示
Action	共通項目です。 ☞「< 項目と内容 >」(21-32 ページ)
Address	非表示
Sub Info	テーブル名を 30 文字以内で表示します。
Prev Value	非表示
Chg Value	非表示

◆操作ログ取得タイミング

操作ログの取得タイミングは取得対象となる機能により異なります。

MEMO

- オフラインでの操作については、オンラインモードに移行した時点から操作ログの取得が始まります。オフライン時はログの取得は行いません。

< 基本のスイッチ動作 >

前回値の取得はしません。

- **ビットスイッチ**
  変更後の状態のみ操作ログを取得します。
  例：「ON」から「OFF」に変更した場合は、「OFF」のログのみ保存します。
- **ワードスイッチ**
  変更後の状態のみ操作ログを取得します。
  例：「100」から「200」に変更した場合は、「200」のデータのみ保存します。

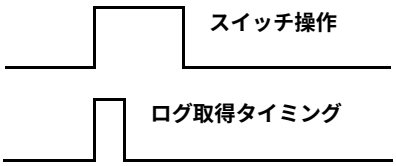
<[タッチパネル検出] が [ON 検出] の場合 >

MEMO

• [タッチパネル検出] の設定内容については設定ガイドを参照してください。

☞「5.15.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ◆ 操作設定」(5-128 ページ)

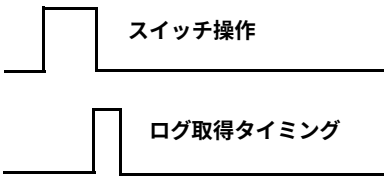
• 通常のスイッチ動作の場合（全スイッチ共通）
スイッチ ON することでログ取得を実行します。モーメンタリの場合は、ON と OFF でデータ値を取得します。



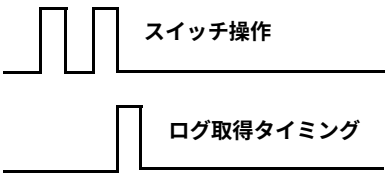
• ON ディレイまたは OFF ディレイを設定した場合
操作ログの取得タイミングは、ディレイ時間経過後となります。
• 2 度押し設定した場合
操作ログの取得タイミングは 2 度押しが有効になった時となります。

＜[タッチパネル検出] が [OFF 検出] の場合＞

• 通常のスイッチ動作の場合（全スイッチ共通）
スイッチ OFF することでログ取得を実行します。変更後の値のみログとして保存します。

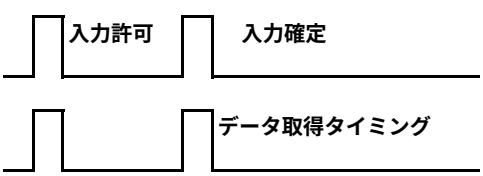


• 2 度押し設定の場合
2 回目にスイッチを押したタイミングで操作ログの取得を実行します。

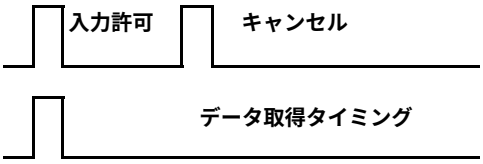


< データ表示器の場合 >

データ入力許可のトリガで前回値を取得し、入力確定のタイミングで変更値データを取得します。



入力許可のトリガで前回値を取得し、その後キャンセルした場合、操作ログの取得は実行せずに前回値データが破棄されます。



◆操作ログの保存

取得した操作ログは、CF カードまたは USB ストレージに保存すると CSV 形式のファイルに変換されます。

< ファイル名 >

ファイル名は次の形式で保存されます。

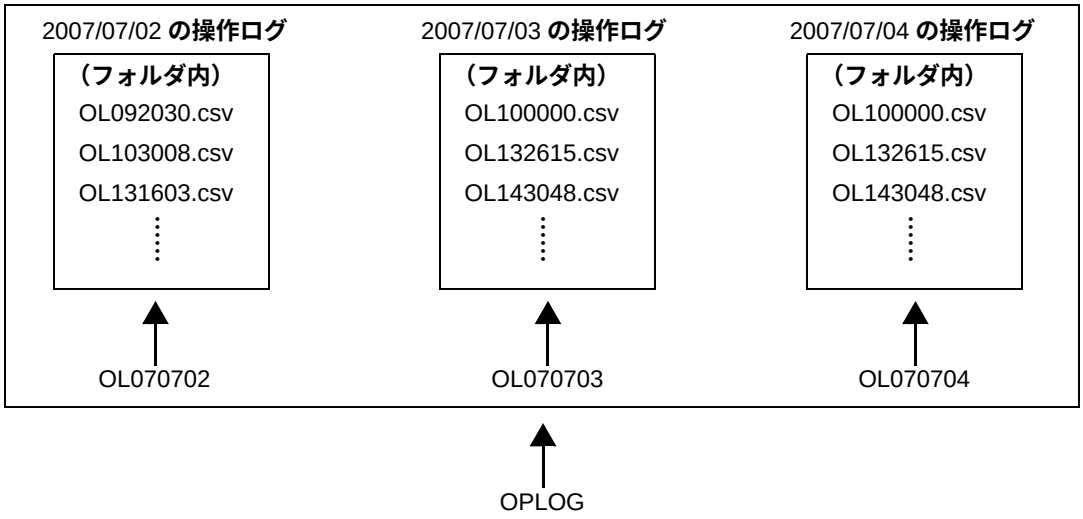
OLHHMMSS.csv

OL ：操作ログ用のファイル頭文字
HH ：時
MM ：分
SS ：秒

例：17 時 3 分 8 秒に保存した操作ログ　OL170308.csv

< ファイルフォルダ >

ファイルは自動的に作成されるフォルダに CSV 形式で保存されます。保存先に指定した CF カードまたは USB ストレージに「OPLOG」フォルダが作成され、1 日単位で「OPLOG」内にフォルダが作成されます。



例：2007 年 7 月 2 日の 13 時 16 分 3 秒に保存した操作ログの保存フォルダとファイル名

¥¥OPLOG¥OL070702¥OL131603.csv

MEMO

- 「OPLOG」フォルダ内には操作ログ以外のファイルを保存しないでください。
- 操作ログファイルは CSV 表示器を使って GP 上に表示することができます。

☞「24.6 CSV データを画面上に表示したい / 編集したい」（24-30 ページ）

21.8 制限事項

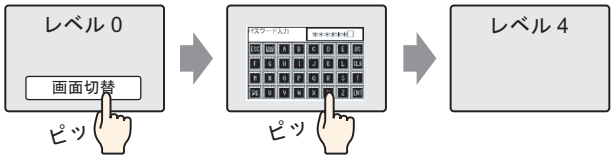
21.8.1 パスワードと ID の制限事項

- ユーザ ID &パスワード入力ウィンドウやパスワード入力ウィンドウ、ユーザ ID 入力ウィンドウは編集できません。
- 接続機器からパスワードやユーザ ID を入力することはできません。
- バーコードリーダからパスワードやユーザ ID を入力することはできません。
- パスワード入力ウィンドウ（ユーザ ID 入力ウィンドウ）やユーザ ID &パスワード入力ウィンドウを表示中に、ローカルウィンドウまたはグローバルウィンドウの起動ビットが ON した場合は、パスワード入力ウィンドウ（ユーザ ID 入力ウィンドウ）またはユーザ ID &パスワード入力ウィンドウが閉じてから表示されます。
- セキュリティレベルを設定したウィンドウ画面を呼び出すためのウィンドウ部品には、[常時読込み] を設定しないでください。設定しても GP 上にパスワード入力ウィンドウまたはユーザ ID &パスワード入力ウィンドウは表示されず、セキュリティ機能が動作しません。
- パスワードを登録していないセキュリティレベルを画面に設定した場合、その画面のセキュリティレベル以上のパスワードまたはユーザ ID とパスワードを入力しないと画面が表示できません。

  表示したい画面以上のセキュリティレベルのパスワードまたはユーザ ID とパスワードが登録されていなかった場合は、画面を切り替えることができません。

  例 1　パスワードを以下のように設定し、レベル 4 の画面に切り替える場合

レベル 1	AAAA
レベル 2	BBBB
レベル 3	CCCC
レベル 4 ～ 14	なし
レベル 15	ZZZZ

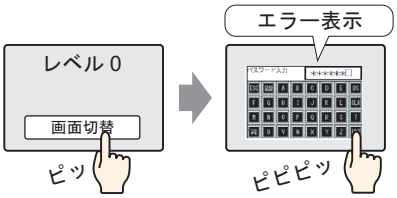


レベル 15 のパスワードを入力

レベル 4 以上のパスワードがあるので、画面切り替えは可能

  例 2　パスワードを以下のように設定し、レベル 4 の画面に切り替える場合

レベル 1	AAAA
レベル 2	BBBB
レベル 3	CCCC
レベル 4 ～ 15	なし



何を入力しても切り替わらない
[ESC] キーをタッチして元の画面に戻る

レベル 4 以上のパスワードがないので、画面切り替えできない

- 「レベルモード」（ユーザ ID を追加しない）では、パスワード未設定でもエラーにはなりません。同一のパスワードを設定するとエラーになります。
  「ユーザ ID モード」（ユーザ ID を追加する）では、パスワードは必ず設定する必要があります。同一のパスワードも設定できます。ただし、ユーザ ID が未設定、または重複するとともにエラーとなり設定できません。
- GP 電源投入時に最初に表示する画面（初期画面）にセキュリティレベルを設定した場合は、初期画面を表示してからパスワード入力ウィンドウまたはユーザ ID &パスワード入力ウィンドウが表示されるため、パスワード入力ウィンドウまたはユーザ ID &パスワード入力ウィンドウ表示中も初期画面の動作は行われています。また表示されたパスワード入力ウィンドウは [ESC] キー、ユーザ ID &パスワード入力ウィンドウは [Cancel] キーでキャンセルすることができません。正しいパスワードまたはユーザ ID とパスワードの入力が必要です。

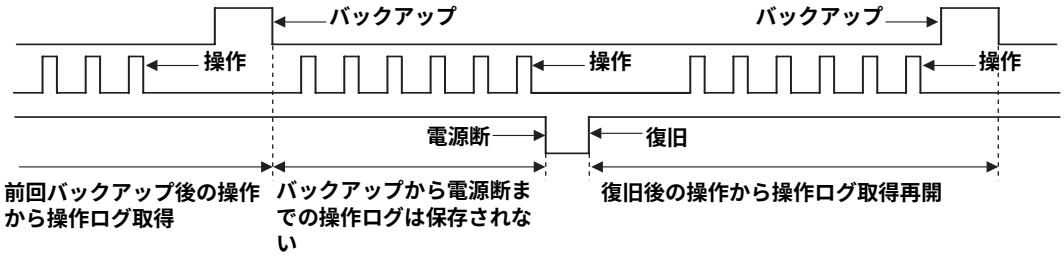
21.8.2 グローバルインターロックの制限事項

- グローバルインターロック中は画面へのタッチ操作が無効になります。ただし、次の機能については通常時と同様にタッチ操作が可能です。
  - システムメニューの表示および操作
  - 輝度・コントラスト調整バーの表示および操作
  - エラーウィンドウの切り替え（1 行表示⇔詳細表示）および消去
  - スタンバイモード（画面 OFF）からの復帰
  - オフラインでの操作
- グローバルインターロックによりタッチ無効となっている機能や部品をタッチした場合は、タッチブザー音が鳴らず、また AUX も出力されません。
- グローバルインターロック中に、ラダーモニタ、デバイスモニタ、ロジックモニタ、アドレスモニタを起動させないでください。起動させた場合、タッチ操作が無効になるため、各モニタ機能を終了することができなくなります。

21.8.3 操作ログの制限事項

- CF カードまたは USB ストレージへの保存中に電源を切ったり、CF カードや USB メモリなどを抜かないでください。正常に保存されない場合があります。
- CF カードまたは USB ストレージの残り容量よりも大きいファイルは保存できません。
- プロジェクト転送時に SRAM 上に収集されていた操作ログが CF カードまたは USB ストレージに保存されます。
  ただし、GP 上で CF カードや USB ストレージが見つからない場合や容量が不足している場合は、転送を実行すると操作ログのデータが消去されます。オフラインメニューのプロジェクトファイルの転送画面から転送した場合は、操作ログは CF カードまたは USB ストレージに保存されません。
- シミュレーションの動作は、操作ログには残りません。
- オフラインメニューのプロジェクトファイルの転送画面から転送した場合は、操作ログには残りません。
- 操作ログの実行条件を「ビット ON 時」に設定した場合でも、SRAM の容量がいっぱいになった場合は自動的に CSV ファイルとして CF カードまたは USB ストレージに出力されます。
- GP-Viewer を使用してリモート操作されたログは保存できません。

- IPC シリーズには、バックアップ SRAM がないため、周期的に履歴データのバックアップを行っています。指定した周期またはトリガでバックアップするため、バックアップ前に電源が切れると、最後のバックアップ以降の操作ログは保存されません。復旧後の操作から操作ログの取得が再開されます。

  IPC シリーズの履歴データの保存先などの設定については以下を参照してください。

  ☞「37.9.1 システム設定ウィンドウ[本体設定]－[IPC設定]の設定ガイド ■ 履歴データ保存設定」(37-138 ページ)